



栗（東温市松瀬川）：関連記事5頁「四季燦餐」

🍂🍁🍃🍁🍂🍃🍁🍂🍁🍃🍁🍂🍁🍃🍁🍂🍁🍃🍁🍂🍁🍃🍁

今年は特別な1年

令和2年の年頭から、新型コロナウイルス感染症に世界中が大変苦しい思いをしています。日本では、4月～5月の緊急事態を乗り越え、夏になれば一旦収束（願いは終息）できるのかと思っていましたが、そう甘くはありませんでした。感染症対策と経済対策の天秤のつり合いは難しいと感じさせられました。東京都では、感染拡大に歯止めが利かず、小池東京都知事から〈この夏は「特別な夏」〉として、旅行や帰省を控えていただきたいとのメッセージが発出されました。高校野球も通常の夏の甲子園が中止となり、交流試合になりました。この様子からすると、〈今年は特別な1年〉として歴史上に残るのかと思ったりします。

病院でも、新型コロナウイルス感染症対策として、例年通りとはいかない特別な1年の真っ最中ですが、

看護部もそれぞれの部署がそれぞれに自部署の役割を果たしています。私たち看護師が提供する看護に特別はありません。必要とされる患者さんへ必要な看護を実践し不安な気持ちを少しでも和らげていただきたいと思っています。

個人的には、還暦という特別な1年を迎え、盛大に同窓会が催される予定でしたが、残念ながら別の意味での特別な1年となり、中学生時代にタイムトリップできない状況です。今までの普通が普通でなくなる世の中になるのかもしれませんが、人と人とのつながりや絆はこの先も大切にしたいと思っている今日この頃です。

看護部長 高須賀 久美子

RST
呼吸サポートチーム

スペシャルチーム 出勤

RSTとは、Respiration Support Teamの頭文字をとった略称です。

人工呼吸器を必要とする患者様に対して、呼吸ケアの向上及び呼吸器からの早期離脱を目標に各方面からサポートしていこうというものです。

チームのメンバーは、医師、看護師（認定看護師）、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士などです。

活動内容は、毎週水曜日に対象患者様の定期回診を行っています。その際、人工呼吸器の適切な設定や管理環境についての助言などを行っています。マスクでの人工呼吸をされている患者様に対しては、マスクによる皮膚損傷の予防や、より良いマスクの提案などを行っています。また、RSTスタッフが中心となり、職員を対象に定期的な勉強会を開催しています。

2012年に発足して以来、これまで延べ2,140件のラウンドを行ってきました。これまで8年間活動してまいりましたが、人工呼吸器のモデルチェ

ンジに伴う性能の向上、新しいマスクや新規デバイス（ネーザルハイフローなど）の登場など、呼吸療法は目まぐるしく変化しています。これらは、臨床工学技士の専門分野ですので、常に新しい情報入手し患者様に還元できるよう努力していきたいと思えます。

なお、RSTは入院患者様を対象としています。呼吸器を使用されている患者様で、呼吸器に関するご相談がある場合は、担当医からRSTへ紹介していただくようお願いいたします。

臨床工学技士 楠 啓輔



人工呼吸器を調整中の楠臨床工学技士

ボランティアさんグッジョブ

百花斉放

—昨年10月の弊紙58号で、外来棟玄関前のロータリーの植栽をしてくださるボランティアを募集したところ、数名の方が応募してくださいました。

以来、季節を問わず丹精していただき、玄関前は花が絶えることはありません。外来を訪れる方も、思わず足を止めて眺めていることもあります。

先日（7月下旬）も手入れをしてくださっているのをお見かけしましたが、炎天下に加え、コロナ禍のせいでマスクをしての作業は、さぞや大変だろうとお察しするとともに、頭の下がる思いでした。

本来であれば、我々職員がしなければいけないところですが、そこに割ける人員が確保できないのが現状で、つつい近隣の皆様に甘えさせていただいていることに忸怩たる思いがあります。—

方で、こうして地域の方々と交流を持つことで、地域に根差した病院へと歩一歩進んでいるのだと実感もしています。

ひたすら花壇の手入れをしてくださっている姿に、地域の方に支えられて当院があるのだと、改めて思いを致した次第です。これからもよろしくようお願いいたします。



口福いただきました

木下商店さんより お菓子寄贈

コロナ禍が拡大を続ける6月18日に、木下商店の桑島営業部次長と加藤係長の2名が来院され、「新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、医療従事者の皆様にささやかではございますが“ホッとするととき”を提供できれば」とのお言葉とともにロングライフパンと和菓子640個を無償提供いただきました。

高須賀看護部長と竹歳事務部長が代表して受け取り、企画課スタッフ全員で、院内の各職場に木下商店から提供されたことを伝え配りました。

岩田院長は「今後も長期に亘ると言われている、新型コロナウイルス感染症の流行に立ち向かい続ける元気も併せていただくことができ、職員一同

深く感謝するとともに、引き続き地域の皆様が安心して生活できるよう、医療活動を提供してまいります」と謝意を表しました。

梅雨シーズンが到来したなか、“ホッとするととき”を木下商店様、本当にありがとうございました。

愛媛医療センター職員一同



加藤係長から寄贈を受ける高須賀看護部長

見て、見て～ 重症心身病棟 ポスター展示

当院では、例年、重症心身障害病棟3個病棟において「ハッピーフェスティバル」という病院あげてのイベントを5月末に開催しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症流行のためにみなさんと集ってのイベント開催は難しく、イベントは病棟ごとでの振替行事となりました。しかし、イベントで披露しようとして21・22・23病棟のみなさんといっしょに準備をしてきたポスターも、病棟外の方にも是非見ていただきたいと思い、今回のポスター展示を企画しました。展示そのものをイベントの一環として行い、気に入った作品にカラーシールによる投票ができるように

して病院内中央廊下（売店前）に展示しました。

中央廊下を通られた方々がポスターの前で足を止めてくださる様子や、どの作品がいいかな…と考えてくださっている様子に出会えることがありました。このようなときには、私たち職員もたいへん嬉しい気分になりました。利用者の方々も、療育訓練棟やリハビリなどに出かける時に展示場所を通り、シールが増えていくととても喜んでおられました。

コロナ禍のため人との交流を回避せざるを得ない状況ですが、それぞれの病棟で、利用者の方々が参加できる形を工夫して仕上げた作品をいろいろな方に見ていただく機会をつくれたことを嬉しく思います。さらにこの紙面を通してたくさんの方に見ていただけることにわくわくしております。

最後に、秋が深まったところに、今回よりもっと規模が大きなアート・ギャラリーを中央廊下で開催するように準備を進めています。ご期待ください。
療育指導室 保育士 中若奈



手形ZOO



だるまさん…と♡



夏の海

地域の輪



今回は当院の**脳神経内科**です

繋がる地域医療連携

当院の脳神経内科は平成19年6月より、在宅療養を続けられている神経難病患者さんを中心に、介護者の負担軽減・介護休暇目的として、レスパイト入院による医療・看護の提供を行ってきました。患者さん本人はもとより、患者家族や難病コーディネーターほか多職種在宅医療スタッフとの連携・情報共有・交互支援を基盤に、難病患者さんの療養体制の構築を行っています。

神経難病疾患の多くが決定的な治療方法の確立には至っていないのが現状で、介護者の高齢化も進むなか、家族の負担は今後も増大することが予測され、当科ではこれからも神経難病患者・家族と共に協力しあえる医療の提供を目指していきたいと思います。

平成28年4月からは愛媛県中予圏域の二次救急輪番病院への参加を開始し、高齢化の進む地域での脳卒中を中心とした神経救急疾患に対する医療提供のため、救急診療支援を続けています。脳卒

中起急性期への治療選択も増え、基幹・高次機能病院との連携や後遺症に対するリハビリテーション病院との連携を円滑に行えるように努めています。

通常の外来では、めまい・ふるえ・しびれ・物忘れ等の脳神経内科疾患の診療、また、専門としての神経難病外来・頭痛外来も行っており、令和2年4月からは日本神経学会准教育施設認定を受けました。これからも神経難病および救急診療への支援を柱に、地域医療の一助となるよう努めて参りますので、脳神経内科をよろしくお願い申し上げます。



脳神経内科医師 戸井 孝行

医心伝心

A型胃炎のおはなし

慢性胃炎はA型胃炎（自己免疫性胃炎）と、H.pylori感染によるB型胃炎に分類されます。通常、慢性胃炎といった場合はB型胃炎を指します。

B型胃炎は、萎縮性変化が幽門前庭部から始まり胃体部に広がるのに比べ、A型胃炎は胃体部を中心に萎縮性変化を認め、抗壁細胞抗体や抗内因子抗体が陽性になることがあり、血中ガストリン値は高値となります。

A型胃炎は、何らかの自己免疫機序により、壁細胞が破壊され、胃酸および内因子の分泌が低下します。

胃酸分泌低下により、幽門前庭部に存在するG細胞からガストリン分泌が増加するとともに鉄吸収が阻害されます。高ガストリン血症により、腸クロム親和性細胞様（ECL）細胞が刺激され、その過形成から胃カルチノイドを発症することがあ

ります。また、胃粘膜の高度萎縮により、B型胃炎に比べて胃癌の発生が多く、定期的な内視鏡検査が勧められます。

ビタミンB₁₂は、内因子と結合し回腸末端から吸収されるため、内因子分泌低下により、ビタミンB₁₂の吸収が阻害されます。ビタミンB₁₂は、DNA合成に関わるため、その不足により巨赤芽球性貧血（悪性貧血）をおこします。

その他、A型胃炎は、1型糖尿病や自己免疫性甲状腺炎を合併することがあります。

A型胃炎は、北欧のスカンジナビア地方に多く、わが国では少ない傾向があります。診断は、内視鏡による胃体部中心の萎縮性胃炎、高ガストリン血症、抗壁細胞抗体陽性、抗内因子抗体陽性、悪性貧血の合併などを参考に総合的に判断します。



消化器内科 古田 聡

医療安全管理室 だより

こんなことしています

「医療安全文化」についてのお話

医療安全文化とは、「医療に従事するすべての職員が、患者さんの安全を最優先に考え、組織全体でその実現を目指す態度や考え方およびそれを可能にする組織の在り方」である。病院組織が良好な医療安全文化を醸成すると、医療チームの能力が高まり、コミュニケーションエラーが減り、医療の質が高まると言われている。

英国出身の心理学者ジェームズ・リーズン氏は、安全文化の4要素として「正義の文化」「柔軟な

正義の文化	事故が発生した場合、公正な判断・対応をする文化
柔軟な文化	変化する状況に適時適切に対応する文化
報告する文化	正直にありのまま報告する文化
学習し続ける文化	再発防止を目指し、改善し続ける文化

文化」「報告する文化」「学習し続ける文化」を提唱している。

この4要素の中で「報告する文化」については、報告することの重要性を理解し、良し悪しに関わらず、すべての情報を報告することが重要であるとされている。

当院では、日常業務において“ヒヤッ”としたり、“ハッ”としたりした体験について記載する報告書のことを「ヒヤリハットレポート」と呼び、職員全員が組織のリスクを明らかにし、報告された内容を組織全体で共有し、再発防止策を検討するための重要な手段としている。実際、医療安全管理室では各部署から提出されたヒヤリハットレポートを毎日点検し、各部署のラウンド、情報収集、要因分析、再発防止策の検討を行い、再発防止に役立てている。今後も報告する文化としてヒヤリハットレポートによる報告を推進し、安全文化の醸成に努めたい。

医療安全管理係長

佐久間 千代子



四季燦餐 ～栗の巻～

朝夕の風が心地よく感じられるようになりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

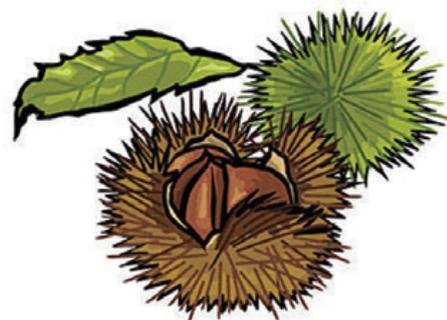
今回は、栗ご飯、モンブラン、ようかん、甘露煮といったメニューに欠かせない、ほくほくとした食感と甘味で人気の秋の味覚、「栗」についてご紹介したいと思います。日本三大栗の一つでもある「中山栗」は、愛媛県人にとっては、とてもなじみのある食べ物ではないでしょうか。少しずつ減少してきていると言われるものの、平成30年度の生産ランキングでは、茨城県、熊本県に次いで第3位でした。

日本での栗の歴史はかなり古く、縄文時代にまでさかのぼります。その頃は、栗は主食だったので、採取だけでなく栽培もしていたことが遺跡から分かったそうです。

常温で保存しておくとも栗は呼吸しているので、糖分がどんどん消費してしまい、甘さが逃げてし

まいます。乾燥しないよう新聞紙でくるんでから、ビニール袋に入れて冷蔵庫のチルド室に3日くらい入れておくと甘くなるそうです。

栗には、疲労回復効果のあるビタミンB₁、むくみや高血圧を予防するカリウム、さつまいもよりも多く含まれる食物繊維、かぜの予防や美肌効果のあるビタミンCも豊富ですが、でんぷん質に包まれているので、加熱しても壊れにくい特徴があります。このように、栗は小粒ですが、ぎっしりと栄養が詰まっていますので、その分カロリーが高めです。栗8個分が、ごはん一膳分のカロリーに匹敵しますので、食べすぎには注意して、秋の味覚を楽しみましょう。



え～んやこ～ら～ 減災作業に汗

当院の敷地は、北から南へ緩やかに傾斜していて、そのため南西角にある附属看護学校と保育所は、大雨が降ると浸水することがあります。先日、7月7日の大雨の際にも水が浸きそうだったので、土嚢を積むなどの応急処置で何とか切り抜けましたが、『これではいかん』ということで、事務部職員で減災のための作業を行いました。

当初は、6月に行う予定だったのですが、業務の都合や天候不順で延び延びとなり、7月末までずれ込んでしまいました。



まずは梅雨の間隙を縫って、7月20日に、あちこちにある排水溝に溜まった土の除去作業を行いました。重いグレーチングを持ち上げるだけで汗が噴き出しましたが、ひたすら掘りまくって、排水溝はきれいになりました。

続いて、梅雨が明けた7月31日には、管理棟の西にある雨水浸透枡に溜まった泥の浚い出しを行いました。およそ2メートル四方の狭い枡に入れるのはせいぜい3人。泥の浚い出し、運搬を交代で行い、50センチほどの厚さに溜まっていた泥を取り除くことができました。

どちらも炎天下の大変な作業でしたが、期待の若手からへっぴり腰のオッサンまで一丸となってスコップやツルハシを振るい、一輪車を押しての作業に邁進しました。

熱中症対策として小まめに水分補給をしながら作業を進め、事故もなく完了することができました。

梅雨には間に合いませんでしたが、これからの台風シーズンへの備えにはなったのではないかと思います。



期待の若手（左端）と
へっぴり腰のおっさんズ奮闘中

いやいや、
もう一杯

もう、ええで



看護学校の頁 ～学び舎から～

今年度の「ナイチンゲール祭」としての学校行事は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年のように学年間で交流しながら看護の日について考える活動ができませんでした。

そのような中、当院でも5月より新型コロナウイルス感染症により、入院治療が必要となる方を受け入れ支援するようになりました。当院には、各学年の講義講師としてきていただいたり、臨地実習で実習指導に携わっていただいたりしている職員や医療スタッフの方々



が多くおられます。そのような医療スタッフの方々が、第一線の医療現場で、患者さんに関われ支援されていることを学生へ伝えました。すると全学年の学生から、お世話になっている医療スタッフの方々に尊敬と感謝の思いを届けるための応援メッセージを送りたいという申し出がありました。3年生からはビデオレター、2年生からは病棟毎に色紙での応援メッセージ、1年生からはイラストを交えた応援メッセージシートと各学年それぞれが尊敬と感謝の思いを届けました。

看護の日になみ、看護の創始者であるナイチンゲールには「天使とは、美しい花をまき散らす者でなく、苦悩する者のために戦う者である」「犠牲なき献身こそが本当の奉仕である」という言葉があります。この意味をふまえると、今年度の「ナイチンゲール祭」は、医療スタッフの役割を考え、看護に携わっていく者として学んでいる学生として意味のある活動ができたと考えています。

改めて、医療現場でご活躍されている方々へ尊敬と感謝の思いを届けたいと思っています。

看護学校教員 佐伯 香織

尊敬と感謝をこめて…

ちよひと言を放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

小学校三年から剣道を始めて、現在五段を頂いている。が、しかし、四十代の頃に腰を痛め、二度の入院を経験した。MRIを撮ると、腰部には大小七つの爆弾を抱えていることが判明した。

二度目の入院のきっかけは、剣道の稽古中に腰に違和感を覚えたのがそもそもの始まりということで、妻からは「今度剣道したら離婚する」と宣告されては諦めざるを得ない仕儀となった。現在運動といえば、飼いだの散歩とパチンコぐらい（パチンコは球技です）というのが現状だ。

ところで、剣道界では「五段は地方の最高位。六段は全国区の初段」という言葉があるほど、五段と六段の間には隔絶した境地がある。六段に合格した者にしか見ることができない景色をこの目で見てみたかったし、今でも見てみたい気持ちに変わりはないが、前述のような事情から、剣道を離れて十年以上が経つ。

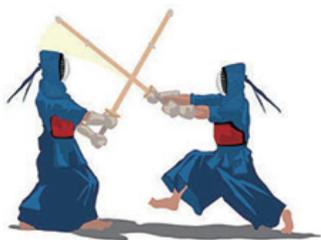
代わりというのでもないが、以前から興味があった居合道であればそれほど腰に負担がかかりそうもないし、何より剣道のルーツだし…などと画策していたところ、妻から、「居合始めるとか言わんとつてよ。お父さんのことじゃけん、居合始めたら『刀買え』言うに決まってるんじゃけん」と前もって釘を刺されてしまった。

妻の懸念も尤もなことで、刀（真剣）は泥沼だ。最低でも拵え（柄・鍔・鞘などの刀装具）込みで五十万円ぐらいから、上は天井知らずという世界なのだから、家計を預かる身としては、当然のことだろう。

それにしても、私が何も言わないうちから先を読むとは…畏るべし我が女房。さしずめ、高段者に圧倒的な剣先で威圧され、身動き取れない初心者というところか。このていたらくでは、六段合格など夢のまた夢。早々に剣の道を諦めてよかつたのかもしれない。

今日から心を入れ替えて、犬の散歩に精進する
としよう。

樹懶菴



外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834
外科外来直通電話 089-990-1835

診療科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循環器内科	6診	午前	船田	船田	泉	岩田	関谷
		午後		岩田			
	11診	午前					
		午後			船田		
	12診	午前					
		午後			泉		
消化器内科	9診	午前	古田	山内(一)	久保	山内(一) (糖尿病専門)	久保
		午後					
	12診	午前			廣岡	大藏	
		午後					
呼吸器内科	10診	午前	阿部	伊東	佐藤	阿部	伊東
		午後					
	11診	午前		渡邊		仙波	山本
		午後					
脳神経内科	12診	午前	尾原	戸井			戸井
		午後	大八木			尾原	
整形外科	15診	午前	宮本			宮本	担当医(初診のみ)
		午後					
	16診	午前	玉井		玉井		
		午後					
リハビリテーション科	15診	午前		曾我部	曾我部		
		午後					
外科	14診	午前					
		午後		石丸			
消化器外科	14診	午前		鈴木	森本	渡部(第3週)	
		午後					
呼吸器外科	14診	午前					湯汲
		午後				佐野(第4週14時30分~)	
小児科(神経外来)	14診	午前					
		午後	菊池		桑原		菊池

専門外来(予約制)		月	火	水	木	金
心臓外科外来	14診					泉谷
ペースメーカー外来	13診				第2・4(午後)	
糖尿病外来	11診					神崎(月1回)
フットケア外来	小児面談室				毎週	
スキンケア外来	救外		第1・3(午前)			
ペインクリニック	12診			山内(康)(午前)		
じん肺外来	13診					西村(第1・3午前)
アスベスト外来	14診		午後		午後	
息切れ外来	11診	渡邊(13時30分~)				
SAS外来	11診					渡邊(14時~16時)
頭痛外来	13診				永井(第2・4午前)	
神経難病	13診			橋本		

※外来受付は8時30分から11時までです。内科は13時から16時までです。(紹介状のない初診の受付は15時までです) 2020年10月1日現在
ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。
※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
ホームページアドレス <https://ehime.hosp.go.jp>

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会(担当:小倉)までお寄せください。